

## 第28回 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成23年 8月 3日（水）19時00分から21時00分
- 2 開催場所 新ごみ処理施設建設工事現場事務所 1階 会議室
- 3 委員出欠 出席13人  
出席委員 荒木千恵子、大江宏(会長)、河本美代子、草苺正行、小林隆志  
小林義明、佐藤壽、田中茂利、寺嶋均（副会長）、時津直子、  
中澄子、増田雅則、松井和夫
- 4 出席者  
事務局 浜三昭、内藤和男、澤田忍、佐藤昌一、奥山尚、飯泉研、  
田中實、深井恭、飯高秀男、高畑智一  
J F Eエンジニアリング株式会社  
パシフィックコンサルタンツ株式会社
- 5 傍聴者 2人

### 【議事次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
  - (1) 第27回市民検討会議事録の確認
  - (2) 第14回・第15回ふじみ衛生組合地元協議会について
  - (3) ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について
- 4 協議事項  
環境学習機能について（その6）
- 5 その他
- 6 閉会

## 【配布資料】

### 議事次第

【資料1】 第27回ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

【資料2】 メディアウォールについて

【資料3】 トイレ器具集計表

【資料4】 1階玄関ホール配置案及び3階平面図

【資料5】 前回までの環境学習機能に関する市民検討会での主な議論等

## 【会議録】

午後7時 開会

### 1 開会

【事務局挨拶】

【配布資料の確認】

### 2 会長あいさつ

【会 長 挨拶】

### 3 報告事項

(1) 第27回市民検討会議事録について

【事務局説明】

会 長 : 何か気づいた点はあるか。

D 委員: わからないところの説明をお願いしたい。3ページ事務局の回答部分、「メディアウォールは、非常に大きなものである。スペース的には1台しか置けないと思っている。」という答えがあるが、後で出てくる図面を見ると、何台も設置しているように見える。どういうことか聞きたい。

事務局 : 総合的な施設を案内するものが1台。それと今回の図面では発電設備に限ったもの、焼却設備に限ったもの各1台についても、メディアウォールと表現を変更した。前は総合的なものだけをメディアウォールと呼んでいた。

D 委員： 意味がよくわからない。

会 長： 後ほどメディアウォールの説明で確認し、議事録を直す必要があればまた検討したい。

A 委員： 電力のことで質問したい。以前、契約金額が当初の予定より半額近くになったのは売電量が増えたことによると聞いたと思う。それで、議事録を見ると、将来的にふじみ衛生組合の資源化施設、三鷹市役所、調布市リサイクルセンターなど公共施設に電力を供給するとなっている。この場合、当初の売電量の金額が込みで契約しているということなので、状況の変化が起きるとどうなるのか疑問を感じる。

売電するという話を当初から聞いているが、その売電相手はどこなのか。

非常電源について、停止は非常電源でできるが立ち上げはできないとのことだが、停止に必要な電力と立ち上げに必要な電力とそんなに差があるのか。

水道について、水がないと稼働できないとのことだが、本体は耐震工事でやっているのだろうが、水道は外部から供給されていると思うので、震災があれば外部からの供給が途絶えるのではないかと、そういう対策は打っているのか。それらについて疑問を感じた。

事務局： 売電については、新ごみ処理施設で電力ができた場合、当然、余剰の電力が発生するので、その余剰部分については基本的に売電する。売電を見込んでいるので、その分契約金額が下がっている。

新ごみ処理施設が動いているときは、周辺施設に優先的に電気を供給することになっている。

売電相手については、東京電力を今のところは想定している。

それから、停止の電力と立ち上げの電力の差についてだが、停止の電力は、今稼働している焼却施設を、外からの電気がとまったときに安全に停止ができるように、非常電源を使って停止する。立ち上げの電力は、既にとまっている状態から立ち上げるため、停止する電力よりも大きな電力が必要になるために、差があるということである。

水道については、現在のところ、この地域で公共の水道を使うと考え

ている。

地震のときにまず安全に停止をする。立ち上げとなったときには、電力と水道の供給が必要となる。

会 長 : 売電先というのは、予定している施設内利用の範囲を増やしていった場合、どこになるかということか。

A 委員 : そうである。

会 長 : 今予定している施設内電力需要・供給が、より広範なところへ行った場合、売電相手が東電ということではなく、もう少し違った表現になると思うが。

事務局 : 基本的にはエコサービスふじみで入札先を選定して、なるべく高いところへ売るという考えで進めている。

A 委員 : ある程度わかったが、ここで発電しても三鷹市の公共施設、調布の公共施設に売るとなると、結局、値段的には競争入札とかできないのではないかと思う。効率のよい方法で供給するように将来的にも考えてほしい。

それから先ほどの立ち上げ電力と停止電力というのはどのくらいか。

事務局 : 一般的に機械というのは動かすときが一番パワーを使う。止めるときは、自動車であればブレーキを踏めば簡単にとまるように、その差が当然ある。非常用の発電機というのは、東京電力の電源が途絶えたときに自分のプラントの発電機関係の設備を安全にとめるだけの電力しか用意していない。これは経済性とか効率性の問題からである。立ち上げる電力が、今回の場合だと1,200キロワットぐらいを想定しているが、非常用の発電機については600キロワット程度を予定している。

A 委員 : 立上げ、非常電源は？

事務局 : 立ち上げが1,200キロワット、非常電源が600キロワット。

A 委員 : わかった。それから、水道の供給網の耐震工事は将来的に対策を立てるのか。

事務局 : 水道については、まず地中に引き込んで建物に入る。耐震施工で建物と水道管、エキスパンションという少し揺れを吸収する部分、それからエルボーという曲がる配管、それを3つぐらい組み合わせて揺れを吸収

する施工方法を行う。焼却施設だからといって変わった施工については考えていない。

A 委員： 外部の供給網が大丈夫かと聞いている。要するに、震災が起きて、あちこち壊れてとまった場合に、焼却施設が全然稼働しなくなるわけだが、ごみは出てくるからごみ処理が大変だと思う。今、東日本大震災では、そういうような瓦礫やごみの処理が大変である。そういうのが滞りなく処理できるように、水道の供給についても対策を打っておいたらどうかということを行っている。

事務局： 建物そのものについて重要度というのがある。ここは、地震があつたりしても設備についても最大限守ろうと考えている。重要度係数というのがあり、1.25という係数を掛けて、建物も設備もなるべく壊さないという考えで設計は進めている。

A 委員： くどいようだが、私の言っている質問を理解していない。ふじみ衛生組合の施設そのものは、新しい耐震指針に基づいているから、建物、施設そのものは大丈夫だという話は前回聞いた。だけど、建物、施設そのものは大丈夫でも、供給する水が来なければだめだということで、外から供給するものも対策をとっておいたらどうかと言っている。

事務局： 水道は、東京都に一本化されており、その水道関係との協議についてもこれから何回か予定している。東京都の方と、公共施設で特に災害対応に必要な施設については、その辺の安全性についてこれからも協議していきたい。

A 委員： わかった。

会長： ほかに会議録について何かあるか。なければ、公開手続きをお願いしたい。

## (2) 第14回ふじみ衛生組合地元協議会について

### 【事務局説明】

## (3) ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について

### 【事務局説明】

#### 4 議題

##### 環境学習機能について

##### (1) メディアウォールについて

会 長 : まず、メディアウォールについて協議していきたい。説明をお願いしたい。

##### 【J F Eよりメディアウォールの説明】

会 長 : 何か質問等はあるか。

J 委員 : メディアウォールに組み込まれるソフトのことだが、最初に組み込まれるものはJ F E側で用意されるということか。

事務局 : そのとおりである。

J 委員 : 更新はどうか。

事務局 : 更新については、20年間の運営委託をするので、中身にもよるが、その中でお願いしたいと考えている。

J 委員 : 大体がJ F E側の負担でできると考えてよいか。

事務局 : そのとおりである。

B 委員 : メディアウォールにはメリットがあり、大変有意義ですばらしいものであると感じているが、一方、デメリットはどうか考えてみた。大きさへの実感が乏しくなること。もう1つは、実物の持つ迫力感、実質感が乏しくなるのではないか。それらをカバーするには、大きさの数値をCGの図の中に挿入してはどうか。見る人がサイズを実感できるように、寸法、あるいは何か物を置くとか。

もう1つは、可能な部品や現物は展示してもいいのではないか。例えばバグフィルターとか、ごみがそこで吸収されガスが区別されていくというものを、部分的でいいので、目の当たりにする。これが有効ではないかなと感じる。あと、その他適切なパンフレットがあればそれが映像をカバーしてくれると感じた。

H 委員 : 見学者が実際に工場内で実物を見るのと、メディアウォールで映像を見ることの違い。メディアウォールを見ることの効果というのはどういうことが挙げられるか。小学生や小さい子供たちが見てわかるのかどうか。何かその場所の部分的な映像だけであり、それが

どういう全体の流れの中でどういう位置づけとしてあって、その流れのこの部分だというのが全然よくわからない。果たして来ている人たちがわかるのかと感じた。

会 長 : 今回はサンプル提示であり、全体像があるわけではない。ソフトについてはこちら側の意見や希望をいろいろ出していくことは可能であると思う。

A 委員 : 今の説明や、今までの話を聞いていて、メディアウォールをどう使うかというのがいまひとつイメージとして出てこない。それで、46インチ、42インチ、37インチのテレビだが、これでは小さい。大ホールに大スクリーンとかあるのかなと思っていたが、図には載っていない。だから、大スクリーンで、ごみ処理施設、ごみ処理の考え方とか、そういうようなものをまずビデオで大人数の人が来た場合に、コンセプトというか方針とかをまず説明し、その後、このメディアウォールを使ってそれぞれの説明をするという考えなのか。その辺を整理した上で議論しないといけない。

事務局 : 団体については、最初は研修室の大型スクリーンで全体の説明をする。その後、それぞれの個別の設備の説明等のところで、メディアウォールを活用していきたいと考えて提案している。資料にある各メディアウォールの姿図、これはあくまでもほかの工場で採用したもので、この寸法のもをふじみで採用するわけではなく参考図である。

E 委員 : ストーカ炉とはどんな炉なのか、そういう質問が必ず出ると思う。しかしそれは、最初、見学した方にスクリーンによって事細かく説明をしていくことで理解されていくのだろうと、解釈している。

C 委員 : 例えば、そのストーカ炉がどうなっているか。バグフィルターがどうなっているか。部分部分の説明があるとのことだが、自分でストーカ炉を見たいとき、何かボタンを押すと出てくるとか、自分で選択できるのか。それとも全部つくられているものをただ見ているだけなのか。

事務局 : 例えばマウスで操作をするとか、画面の下にタッチパネルをつけ

るとか、いろいろなことが考えられる。より多くの方が使いやすいような形を、検討させていただきたい。

会 長 : 大きなスクリーン的なメディアウォールを想定したが、資料に小さいのが3つある。今、事務局のほうの説明で、3階に行ったときに、今いろいろなところでやっているような全体の説明がスクリーンで勉強でき、さらに個別のいろいろなところで、より詳しくということなのだが、そのメディアウォールの大きさが前回とちょっとイメージが違ったので、メディアウォールの活用法、スクリーンの活用法、それから大きさがどれくらいで、3つあるとすれば、それぞれがどれくらいのサイズを想定しているのか。ここについてはもうちょっと大きいのが欲しいとか、そしてこういうことをやってほしい、その辺がソフトとの絡みになるのだが、メディアウォールの大きさが、ハードということになるのか。メディアウォールは大人数向きであることをメリットとして書いてあるわけであるから、それに対応する場面にはもっと大きいメディアウォールが必要であるとか、少しソフトと一致、対応させながらの検討が必要かなと思えるのだが、その辺いかがか。

事務局 : 展示スペースは、横の長さが大体7メートル、それから縦の長さが8メートルである。ここにメディアウォールを設置をし、どのような大きさがいいか、あるいは画面の高さ、画面自体をタッチパネルとした場合など、よりいい形のを事務局のほうで考えたいと思っている。メディアウォールそのものを採用することを検討していただき、形状についてはこれから考えさせていただきたい。

会 長 : よくわかった。

A 委員 : 第27回市民検討会議の資料で環境学習機能のたたき台が示された。これについて議論をしたか。要するに、全体の流れの中でメディアウォールというのはこういうふうを考えていくのだということではないかと、いきなりメディアウォールについてどうのこうのといっても進行していかないのではないかと。

会 長 : 大変失礼した。



A 委員 : 第27回市民検討会議の資料では大型のプロジェクターが載っているが、今回の資料では、間仕切りのところには大研修ホールでスライディングウォールがあり、大型プロジェクトスクリーンはないし、整理して議論していきたいと思う。

会 長 : 今までの資料や議論を前提として、ハード面を大方決めるということで、こういう筋立てになっている。ハードといっても、形を全部ここで決めるわけではない。事務局のほうでもこのメディアウォールの採用についてどうかを皆さんに聞いたかったところだと思う。それに対して小林委員からメディアウォールだけでなく、実物的なものも併用するという案も出た。メディアウォールを入れることについてどうかという議題だと思う。その後の項目も、トイレについて、研修室等の間仕切りについて、ハードの面でのご確認を皆さんにしてもらい、その上でのソフト面の議論をということだと思う。

それでは、メディアウォールを1つの環境学習ツールとして入れてもよい、ということによろしいか。どのように使うかというのは今後の課題としたい。

A 委員 : メディアウォールを何台、どこに置くのかというのは、据え置きだから、後で買って置けばいいので、特に難しいものではない。要するにメディアウォールを置く必要な場所がどこかということが問題だと思う。自分たちが勝手に疑問を持ったときにこのメディアウォールを使って調べたい、こういうのが目的だと思う。だから、場所は適当に置けばいいし、来る人が大勢なのか大勢じゃないのかによって台数もおのずと決まってくるのではないかな。

会 長 : ツールを使うというところのご賛同を得たと思っている。

A 委員 : 説明がきちとなされていないから、皆さんがそれぞれの自分のイメージを描いているだけだと思うので、やはりきちと説明しないとイメージが統一できないと思う。

会 長 : メディアウォールの使い方は、さきほどのデモンストレーションのような形で展開していくと思われる。それがタッチパネル式であったり、いろいろな形があるが、それは今後のこととする。また、

中が見えなくて見たいところとか、いろいろなところがあるかと思う。そこも検討し、明確にしていく必要があるので、何台必要かというのも含めて、事務局のほうで整理し、次回、ソフト絡みのところでここにはこれぐらいの大きさ、というのをスペースの中での検討も含めて出してほしいと思う。

(2) トイレについて

会 長 : トイレについての説明をお願いしたい。  
事務局 : トイレについては、協議事項に入っているが、報告事項としていただきたい。

【事務局説明】

会 長 : 何か質問等はあるか。  
B 委員 : 資料の平面図に印刷されている数値と、集計表の数値が違う、どのように見ればよいのか。  
事務局 : カッコ内の数字は階数である。わかりにくい表現になり、大変申しわけない。  
F 委員 : 2階が展示スペースで、子供たちというのはここを一生懸命見る。3階に120名入る会議室があるから、3階にトイレが多いというのはどういうことか。反対に、子供たちがわざわざ3階に上がってトイレを使うよりも、2階にトイレを多くして、子供たちが自由に入出りできるような形にしたほうがよいと思う。  
事務局 : 3階は、大研修ホールがある。そこで見学し、休み時間等になると、同時使用率が高くなる。その辺を考慮して多くしている。  
F 委員 : 大ホールを毎日朝から晩まで使うわけではない。展示は朝から晩までひっきりなしに子供たちは使うと思うし、一般の方も使うと思う。全体的な使用度ということで考えたほうがよりよいのではないかと思うが。  
会 長 : 見学者はいったん3階に上がると思う。また、今の時点で2階を増やすことはできないと思うが。  
事務局 : 施工も2階床まできている。大きく変えることは不可能である。

- G 委員 : 障がい者用のトイレであるが、物を置くスペースが非常にあるところとないところがあるのだが、ベビーベッドとかベビーチェアは3階だけか。そうすると1階と2階の障害者用トイレというのはどのように考慮されるのか。
- 事務局 : 現時点では1階と2階にはベビーベッドとかベビーチェアはついてないが、後からつけることも可能である。
- G 委員 : つけていただきたいのだが。
- 会長 : つけることは可能なのか。
- 事務局 : 補強等を入れることで、後からつけることは可能である。
- 会長 : この件については、後からの検討でよいか。
- G 委員 : 最初につけたほうが費用的には格安にできると思うが。
- 会長 : 普通そうだと思う。
- 事務局 : 検討したい。
- 会長 : 強い要望があったということでお願いしたい。
- H 委員 : 一般のトイレのウォシュレットは必要ないと考える。電気料、消費エネルギーの軽減化を考えると、身障者用には必要かもしれないが。
- 会長 : それについていかがか。
- A 委員 : 便座は保温つきか。
- 会長 : 多分そうである。
- 事務局 : 製品としては保温機能が付いている。節電のために切ることは、もちろん可能である。
- 会長 : 皆さん、ご自宅では大体ウォシュレットになっていると思う。節電については、夏は早目に切るとか、いろいろな使い方はあると思う。我が家でも切っているので、そのコントロールだと思う。ウォシュレットでないほうが良いという意見も今出たがいかがか。
- G 委員 : 障がい者用はつけるように。
- 会長 : もちろんそうだ。障がい者用のところは当然として、ほかのところも多数意見としてはあったほうが良いということだと思うが。
- A 委員 : あった方が良い。

会 長 : そういう方向で委員意見があったということをお願いしたい。

(3) 1階レイアウト(案)について

(4) 研修室等の間仕切りについて

**【事務局説明】**

会 長 : いかがか。

B 委員 : 説明を聞いてエレベーターの収容人数が26名ということがわかった。動線について考えてみたが、仮に80名が来たとしても3回から4回くらいのピストン輸送で可能だなという感じを持った。また、子どもたちは、たかが3階であるから、階段を上がって、そして早く見学したほうがよいのではないかという感じも持った。

M 委員 : 大研修ホールが120名ぐらい入れるということであるが、このスライディングウォールを使う理由は何か。

事務局 : 使い勝手、人数がいろいろなパターンで変更できるというメリットがある。3分の2で使う、3分の1で使う、全部で使うというバリエーションを組めると思っている。

M 委員 : そういう意味合いではわかるのだが、3年生、4年生は大体1クラス40人ぐらい、それがどれだけ来ると、このスライディングウォールを使って部屋を小さくしなくてはならないのか、というのはちょっと疑問に感じた。また、通路のほうから大研修ホールに入るのは2カ所、これはわかるのだが、小会議室はスライディングウォールをつけたら、入り口はどこになるのか。

事務局 : 大研修ホールについては、通常、広く使うときには当然スライディングウォールは収納する。一般的に小学生の研修視察のときは、スライディングウォールをしまい全体を使用する。この研修ホールを2部屋として利用するときのためにスライディングウォールを設置しておけばいろいろな融通がきくということである。

M 委員 : 宴会場やホテルなどでも見られるのだが、学生や一般の方が研修に来た際に、間仕切りまで必要なのかと疑問に感じた。今の説明で30人と60人ぐらいを、割り振って同時に入っても対応できると

いうことなのかと思うが。

事務局 : 小会議室と中会議室の出入りについてだが、図面が切れてしまって申し訳ないが、ロビー部分から入ることができる。

3階平面図の真ん中ところの書庫であるが、これは倉庫としても使えるので、例えば大研修ホールの机やイスもしまわうことが可能である。

会 長 : M 委員から出たスライディングウォール、大研修ホールについて、ほかの委員の方の意見はいかがか。本当に必要になるのかどうかということだと思うが。

J 委員 : 私はあってもいいと思う。ただ、できるだけ部屋の中は四角いほうがいいので、スライディングウォールの収納場所をできれば外に出せないか。通路のほうとか、書庫のほうに入れるなど可能ではないかと思うのだが。

F 委員 : 書庫にはいろいろな本があり、子供たちがそれを読めるようなところと思っていたが、倉庫にもなるとのこと。書庫は書庫として使わせるようにしなくては。倉庫にするというのは何を入れる倉庫なのか。

会 長 : 書庫が図書館の書庫と違うようなので、説明をお願いしたい。

事務局 : まず1点、スライディングウォールの収納についてだが、廊下側へは、通路の幅が3メートルなので出っ張らせてしまうと、見学通路としてどうかと考える。また、長い通路は、いろいろな展示にも使える。

会 長 : 中会議室のスライディングウォール収納は、倉庫側の方へもっていけばどうか。

事務局 : その部分については、J F Eの建築担当との協議となるので即答はできないが、可能性はある。

この書庫、倉庫の使い方については、本や資料を中心に置く場所として考えていた。それに加えて、大研修ホールの机、イスの収納、基本的にはその2つを活用したということで、書庫兼倉庫として考えているということである。

- E 委員 : 大ホールと書庫の問題だが、書庫は書庫としてきっちりと囲いができるのであれば問題ないと思う。
- もう1つ、大ホールの使い方であるが、新しい施設ができるわけであるから、子供たちの学習に早く取り入れてほしいのだが、研修室のスペースで混乱しないよう、学校関係者と相談した方が良く思う。
- 事務局 : 指摘のとおり、同時に複数の学校の小学生がぶつからないよう、両市の関係者とよく日程調整をしたいと思う。
- A 委員 : 中会議室のスライディングウォールの収納スペースはそんなに違和感を感じないのだが、大研修ホールにスライディングウォールの格納スペースは結構大きい。それで違和感がないのかちょっと疑問を感じた。その辺を考慮し、スライディングウォールをつけるかつけないか判断してほしい。
- 事務局 : 大研修ホールが大きいというのは、収納するスライディングウォールの幅が11メートルある。一方、中会議室のほうは4メートル40しかないので、コンパクトになっている。
- A 委員 : それはわかる。だから、これだけのスペースを取ると大ホールというイメージがどうなるのか心配だと言っていて、使い勝手が悪くならなければよい。
- 事務局 : この新ごみ処理施設については、基本的には環境学習ということで、大研修ホール、廊下等も使ったごみの啓発も含めたものがある。それから地域のコミュニティという部分での使い方もある。その1つとして、大研修ホールも含めて会議室の貸し出し、ということを考えている。地域の集まり、会議など、できるだけたくさんの方々が多目的に利用できるように間仕切りを考えている。大研修ホールは施設見学で団体が来たときには、スライディングウォールを使う必要はないと考えている。
- G 委員 : スライディングウォールの件だが、私どももホールを持っているが、いつもスライディングウォールを活用しながらいろいろな会議やイベントをしている。非常に使ってみると便利である。収納庫に

についても、そんなに違和感なくホールの活用もできるので、この案でいいと思う。

会 長 : 賛否があるが、ほかに意見はあるか。

F 委員 : 書庫と倉庫はきっちり分けるようにしてほしい。

事務局 : その部分のレイアウトは、まだ詳細まで検討できていない。皆様の意見を参考に検討していきたい。

F 委員 : レイアウトではなくて考え方である。

会 長 : 明確にその区別をしてほしいと。書庫というイメージはよくわからない。1階のほうにある図書資料、あるいは事務所の資料だったら事務所のほうに入るだろうし、ここはどんな図書や資料を置くのかよくわからないので、そこも含めてご検討してほしい。

時間が迫ってきているので、資料5は次回に回して、今までのハード面について特にご指摘しておきたい、まだ不十分だというところを残りの時間で議論したい。

副会長 : エレベーターの定員が26名という、これは大人の26名か。

事務局 : 大人である。

副会長 : ということは、小学生だと、もう10名ぐらい乗れるか。

事務局 : 詳細の資料がないのだが、大体何キログラムという表示であるので、子どもだともう少し乗れると思われる。

副会長 : 最初のメディアウォール関係のことだが、今ごろになって恐縮だが、今、液晶であったり、投影型もあるとは思うのだが、こういう機器関係は進歩が速く、価格もどんどん下がってきている状況でもあると思うので、スペースが許すなら、できるだけ大きな画面のものにしたほうがよいと思う。

それから、先ほどA 委員から位置づけの問題が出たが、その点について、ほかの都市の施設等での使い方、使い分けについて、例をあげると、大体最初は、大研修室へ行き、ここで全般的なごみの分別の仕方や、ごみの処理が全体としてどう行われているか、施設の中身はどうなっているかという説明がある。そこで全般的な知識を得た後、今度は2階の見学通路へ行く。そこで引率しながら展示

物などの説明をしていく、その中で質問が出てくると、メディアウォールで画面を使いながら答える。特に焼却炉と発電機、発電機については上から機械を見ると中が何も見えない。羽根車とか何も見えない。そこをメディアウォールを使って、羽根車が内部で蒸気を吹きつけられてこのように回っているとか、形でわかってもらう。また、焼却炉を見るウインドウのところでは、焼却炉の内部はさらにこうなっているというのをメディアウォールを使って説明できると思う。

A 委員 : 前回、資源化処理施設が見学できないので、それを見せるためにモニターを使うとのことであった。会長も非常にいいアイデアだということだったので、ぜひそれは考えてほしい。また、焼却炉にごみが入るところをモニターで見せると臨場感があっていいのかなと思う。メディアウォール、これは絵であるから、理解はできても臨場感はないので、ある程度モニター、カメラを使ってこういうことをやっているということを示せると思う。その辺もぜひ考えていただきたい。

D 委員 : メディアウォールはアピールするのに大変よいと思っている。内容については、子供用と大人用では全然違うと思う。非常に重要なツールにもなり得るので、編集委員みたいなものを作り、学校の先生などにも入ってもらい、十分練ったらどうかという意見である。

会 長 : 模型とメディアウォールと今のモニタリングシステムというか、そういうものの組み合わせがあってほしい。トータルにそれぞれの適切なものがあればいいと思うので、そこをもう少し事務局のほうで知恵を絞って、たたき台をつくっていただきたい。施設全体の模型であったり、あるいはバグフィルターを置くとか、幾つか案は出ているので、それらを整理していただいて、それとモニター的なものを置けるかどうか、それはやはりハードのほうに入ってくると思うので、検討していただきたい。

時間が迫っているので、資料5の件については次回に、今日の議論は終了としたい。



5 確認事項

【次回は、10月27日（木）の午後7時に開催】

6 閉会

午後9時00分散会